

自分の思いを・・・

子どもが生まれると、親はわが子の健やかな成長を思い「明るく元氣な子、他人に優しく思いやりのある子に育ちますように」と願います。

子どもが成長し、ことばを覚え、触れ合う世界が広がるさまざまな場面や人と接するようになり、その中には「社会のルールを守る」「相手



やさしさ、助け合いの心を（鳥取みどり園）

子育ては、心育て
「保育園との関わりの中で」

鳥取みどり園 保護者 北脇公幸

を認める」ことが必要となります。そして、それを身につけるための第一歩として家庭があり、保育園があります。

これは、子育てをするうえで必ず通る道であり、一人の親として子ども人間形成に関わっていきたいと日頃より考えていました。

鳥取みどり園では、子どもの時から自分の人権を守り、相手の人権を守っていけるような基礎づくりをめざし、また園生活の中で子どもたちが安心して自分を出し合い、「友だちっていいなあ！友だちと一緒に楽しいなあ！」という気持ちを実感できるよう次のような取り組みを実践しています。

やさしさ、助け合いの心を育てる「たて、よこ保育」の実践（異年齢組編成）一人ひとりの良さと成長の

姿を知り合う確かな保育をめぐす「いいとこみつけ」など。

子どもたちとともに

そんな中で、保護者として保育園の取り組みや姿勢に人権を意識したことがあります。それは、鳥取みどり園の保育士（二十九人）が零歳～六歳までの園児（百六十四人）の名前を全て覚えておられたことです。登・降園時に担任であるか否かにかかわらず、顔を見ると名前を呼ばれます。このことは明らかにその子の人権を尊重し、一人ひとりの人格を大切にしていることのあらわれだと思えます。

家庭における同和保育について考える場合、こどもの立場に立った子育てができていくかという点が挙げられます。たとえば、ある日出かける前

の仕度（着替え）の際、わが子（三歳）に「早くしなさい」と言ったとき、妻が「（子どもが）自分でしているところ！」と教えてくれたことがあり、考えさせられました。イライラは親の勝手であり、一時のことです。子どもの人格を認め、思いやりをもって少し待つてやり、自分でできるようにになれば、次からはもっと早くできるようになります。これが子どもの成長であり、この土台を作ってやるの

が親の役目です。これも同和保育の一つかなと思えました。子どもは親を見て育つと言われます。また一方で、子どもの何気ない言動で親が反省させられるなど、逆に親が子どもから教わることも多くあります。このことから『子育ては心育て』、子育てを通じて親も育つと言えます。これからも、人権を意識してわが子とともに『育ち合い』たいと思います。

第53回全国人権・同和教育研究大会

差別解消はみんなの願い
つながろう仲間
つくろう人権新世紀

地元スローガン

テーマ

差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう。

～部落問題を解決し、人権文化の創造をはかるために、同和教育の充実と発展を通して人権教育・人権啓発を構築していこう～

とき 11月24日（土）～26日（月）

ところ 開会全体会 [メイン会場] 鳥取県民体育館
[サブ会場] 鳥取産業体育館
倉吉体育文化会館

分科会 全33会場（鳥取市・倉吉市・三朝町・東郷町・羽合町）

閉会全体会 鳥取県民体育館

参加費 3,500円（参加・資料代）

問い合わせ先 全国人権・同和教育研究大会事務局

（扇町・県民ふれあい会館内・☎22 0578）